⑵　外国為替資金特別会計（別表３参照）

外国為替資金の収支は、前年同期の733億円の支払超過から、169億円の受取超過となった。収入は、前年同期（3,311億円）に比べ、1,821億円減少して1,490億円となった。一方、支出は、前年同期（4,044億円）に比べ、2,723億円減少して1,321億円となった。

⑶　その他の特別会計等

その他の特別会計等の収支のうち、主な項目についてみると次のとおりである。

社会資本整備事業の収支は、収入8,765億円、支出１兆6,273億円、差引き7,508億円の支払超過であって、前年同期（１兆4,335億円の支払超過）に比べ、6,827億円支払超過額が減少した。

保険の収支は、収入８兆1,192億円、支出16兆5,827億円、差引き８兆4,634億円の支払超過であって、前年同期（８兆302億円の支払超過）に比べ、4,332億円支払超過額が増加した。

3　国債等・国庫短期証券等

△印は支払超過（単位　億円）

区分	平成22年度第１・四半期			前年同期		
	発行(借入)	償還	差引き	発行(借入)	償還	差引き
国債等	302,295	137,265	165,030	240,254	187,600	52,654
国債(１年超)	301,720	136,909	164,812	239,658	187,222	52,436
借入金	575	356	219	596	378	218
国庫短期証券等	1,032,619	994,152	38,467	1,102,524	875,646	226,878
国庫短期証券	912,619	880,152	32,467	988,524	760,402	228,122
一時借入金	120,000	114,000	6,000	114,000	115,244	△ 1,244

国債等及び国庫短期証券等の発行（借入）・償還状況は、上表のとおりである。

国債等の収支は、16兆5,030億円の受取超過であって、前年同期（５兆2,654億円の受取超過）に比べ、11兆2,377億円受取超過額が増加した。国債（１年超）の収支は、発行30兆1,720億円、償還13兆6,909億円、差引き16兆4,812億円の受取超過であった。借入金の収支は、借入575億円、償還356億円、差引き219億円の受取超過であった。

国庫短期証券等の収支は、３兆8,467億円の受取超過であって、前年同期（22兆6,878億円の受取超過）に比べ、18兆8,411億円受取超過額が減少した。国庫短期証券の収支は、発行91兆2,619億円、償還88兆152億円、差引き３兆2,467億円の受取超過であった。一時借入金の収支は、借入12兆円、償還11兆4,000億円、差引き6,000億円の受取超過であった。

（参考）　実質収支

上で述べた財政資金対民間収支は、各会計等と民間との間における収入支出（窓口収支）のみをとらえたものであるが、各会計等の収支の実態をみるため、これに各会計等相互間の収支（国庫内振替収支）を加えた実質収支を示すと、次のとおりである。

△印は支払超過（単位　億円）

区分	窓口収支 (A)	国庫内振替収支 (B)	計（実質収支） (A)＋(B)
一般会計	△ 67,350	△ 111,778	△ 179,128
特別会計等	△ 104,436	15,423	△ 89,013
財政投融資	△ 3,274	8,003	4,728
社会資本整備事業	△ 7,508	3,575	△ 3,932
外国為替資金	169	△ 18,186	△ 18,018
保険	△ 84,634	76,011	△ 8,623
その他	△ 9,188	△ 53,980	△ 63,168
小計	△ 171,786	△ 96,355	△ 268,141
国債等	165,030	△ 7,744	157,287
国庫（１年超）	164,812	△ 7,435	157,377
借入金	219	△ 309	△ 90
国庫短期証券等	38,467	104,099	142,565
国庫短期証券	32,467	118,581	151,048
一時借入金	6,000	△ 14,483	△ 8,483
合計	31,711	—	31,711
調整項目	△ 3,921	—	△ 3,921
総計	27,790	—	27,790

第２　国庫対日銀収支（別表４及び別表６参照）

△印は支払超過（単位　億円）

区分	平成22年度第１・四半期	前年同期
国庫短期証券の発行・償還(△)	△ 64,622	872
特別会計の債券売・買（△）	28,688	25,090
財政投融資	△ 26,280	32,270
国債整理基金	54,968	△ 7,180
その他	△ 15,490	△ 77,292
計	△ 51,424	△ 51,330

期中における国庫対日銀収支（＊５）は、上表のとおり、５兆1,424億円の支払超過であって、前年同期（５兆1,330億円の支払超過）に比べ、94億円支払超過額が増加した。

その内容についてみると次のとおりである。

1　国庫短期証券の発行・償還

国庫短期証券の発行・償還による日本銀行との間の資金調達・資金返済状況をみると、資金調達４兆7,778億円、資金返済11兆2,399億円、差引き６兆4,622億円の支払超過であって、前年同期の872億円の受取超過から支払超過となった。

2　特別会計の債券売・買

特別会計と日本銀行との間の債券売買の状況をみると、２兆8,688億円の受取超過であって、前年同期（２兆5,090億円の受取超過）に比べ、3,598億円受取超過額が増加した。財政投融資は、前年同期の３兆2,270億円の受取超過から、２兆6,280億円の支払超過となった。国債整理基金は、前年同期の7,180億円の支払超過から、５兆4,968億円の受取超過となった。

3　その他

国庫と日本銀行との間の経常収支は、１兆5,490億円の支払超過であって、前年同期（７兆7,292億円の支払超過）に比べ、６兆1,802億円支払超過額が減少した。

第３　政府預金（別表５及び別表６参照）

財政資金対民間収支（２兆7,790億円の受取超過）から政府預金（＊６）の増減に関係のない調整項目（3,921億円の支払超過）を除いた収支は、３兆1,711億円の受取超過であった。また、国庫対日銀収支は、５兆1,424億円の支払超過であった。その結果、政府預金の期末残高は、前期末（３兆213億円）に比べ、１兆9,713億円減少して１兆500億円となった。